

祭司

知っておきたいキリスト教のことば (78)

「祭司」とは、神さまと人との間に立つ聖職者のことです。神道なら神主、仏教なら僧侶だと思ってください。

しかし現在のキリスト教で礼拝をする人を、祭司とは呼びません。もともと祭司とは、旧約聖書の時代に神殿の聖所で神さまに奉仕をしていた人のことを指します。イスラエルの人々と神さまとの仲立ちをするために供え物をささげ、儀式をつかさどっていました。また、神さまのみ心を問うこともありました。



祭司になれるのはレビ族の人々で、祭司長や大祭司といった階級もありました。イエス様が逮捕されたときの大祭司はカイアファですが、彼は王と同等の権限を持っていたと言われています。

一般の祭司は、聖所の前にある敷地で犠牲をささげていました。その奥にある至聖所には大祭司のみが年に一度だけ入り、罪の贖いのための犠牲をささげていました。

しかしイエス様は十字架につけられることで、その血による贖いを全人類に与えられました。神さまから離れていた人間を、神さまの前に立つことができる者としてくださったのです。

イエス様が十字架上で息を引き取ったとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けました。これは大祭司だけが年に一回入り人々のために罪の贖いを祈っていた至聖所が、もはや必要なくなったことを意味します。

わたしたちはイエス様によって、神さまと共に歩む者とされました。神さまと自分たちとの間にイエス様がいてくれれば、それで十分です。特別な祭司はもういないのです。

次回は「再臨」です。お楽しみに。